

小安協・海上安全指導員から キャプテンへのお願い!

お願い

見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進 衝突海難防止ポイント



- 「見張りの徹底」航行中、漂泊中又は錨泊中は常時適切な見張りを徹底する。
「いかなる時に」「いかなる方向から」「いかなる物（他船や障害物など）」が現れるか見つけ、監視することです。
- 「船舶間コミュニケーションの促進」 早期に船舶間の意志疎通を図り、相手船の動向を把握することで、適切な操船をおこなう。
 - ・早目に相手船にわかりやすい動作をとる
 - ・汽笛信号などを活用する（右 短音1回、左 短音2回、後進 短音3回）

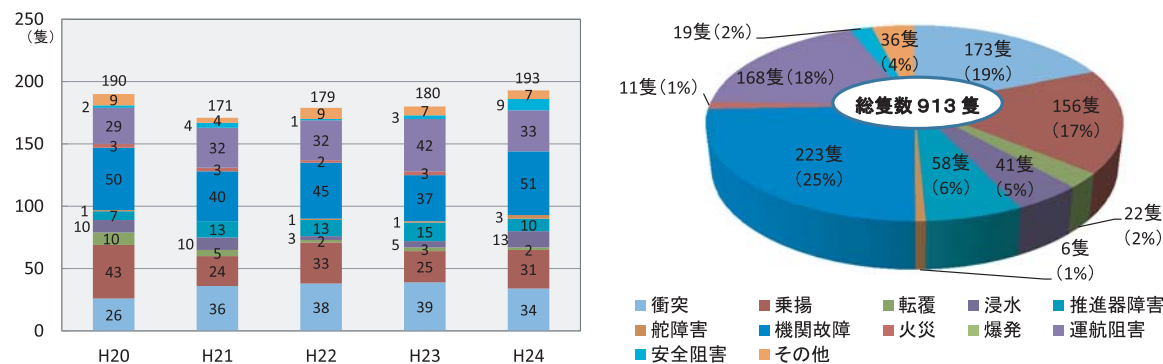
お願い

小型船の安全対策の徹底 小型船の安全対策のポイント



- 「発航前点検の徹底」（特にバッテリー、残燃料の確認は念入りに!）
- 航行中のみならず操業・作業中、錨泊中も含めた見張りの徹底。（船長だけでなく、乗船者皆で協力して見張りをしましょう。）
- 気象・海象情報の入手
- ライフジャケット着用等自己救命策（連絡手段・緊急通信番号118番）の確保

過去5年（平成20年～24年）プレジャーボート海難発生状況



膨脹式ライフジャケットご使用の皆様にお願ひ!

年に1度の安全チェックをしましょう!

あなたの膨脹式ライフジャケットこのようになっていませんか?機能が損なわれ大変危険です!



膨脹式ライフジャケット 点検チェックリスト (例)

気室生地 (浮力部) 重要チェック!

- ①生地着部に割れ・損傷・劣化がないか確認。
- ②印刷が剥がれてなくて読み取れるか確認。
- ③補助送気管 (赤いチューブ) から口で膨らませ、空気が漏れていないか確認。

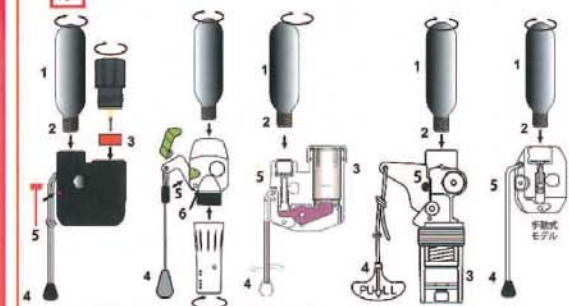


炭酸ガスボンベ 重要チェック!

- ①ボンベの封版に穴や傷がないか確認。
- ②ボンベの取り付けが緩くなっていないか確認。(奥まで軽く回し締めた後、さらに90°ほどきつめに締める)
- ③サビやカビの発生がないか確認。
- ④ボンベに傷や凹みがないか確認。



充てん装置 (カッター装置) 重要チェック!



- ①損傷・劣化がないか確認。
- ②手動作用索 (引っ張る棒) が外に出ていないか確認。
- ③ロックピンがついているか確認。
- ④充てん装置がインジケータ (取付確認表示) モデルは、インジケータの表示の色が2つとも緑になっているか確認。
- ⑤取り付けられているカートリッジ (スプール・マガジン等) が未使用のものか、使用期限内のものか確認。
- ⑥ガスボンベが未使用のものか確認。

カートリッジ (スプール・マガジン等) 重要チェック!

製造から3年以上経過したものは交換をしてください。それ以内のものも早めの交換をお勧めします。



カートリッジ、(スプール・マガジン等)、水分を感知するパーツには使用期限がありますのでご確認ください。使用期限が表記されているタイプ(上)、製造年月が表記されているタイプ(下)など、メーカーや機種によって違いがありますので、ご注意ください。使用期限設定には若干の違いがありますが、概ね製造から3年以内で交換してください。また、気室からのエア漏れやボンベの腐み・外れなど、経年劣化による破損箇所の発見には自主点検が有効です。ご使用前や使用開始から1年に1回程度の自主点検実施をしてください。ご自分での点検にご不安な場合はメーカー点検(有償)をご依頼ください。

カバー

生地・縫製部に損傷、劣化等がないか確認。

ベルト

縫製部に損傷、劣化等がないか確認。

手動作用索

割れ、切れ、絡まりがないか、直ぐに引けるように出ているか確認。

プラスチック部品

損傷、劣化等、バックルが緩くなっていないか確認。



通常時 (膨脹前)

ホイッスル

音が出て、ヒモで繋がっているか劣化・損傷・ひび割れがないか確認。

炭酸ガスボンベ

取り付けが緩くなっていないか確認。



膨脹時

気室生地 (浮力部)

再帰反射材

剥がれ・劣化がないか確認。

(補助送気管) 補助送気管

劣化・損傷・ひび割れ 溶着部に割れ・損傷・劣化 キャップが取り付けられているか 口で吹いてみて、空気が正常に送れるか確認。

*メーカーにより機構の配置が異なることがあります。

小型船舶関連事業協会作成リーフレット抜粋